

新発田市長選挙運動の総括

投票日前夜 11/18 運動終了を受けて作成

1 市長選立候補ドキュメント

11/2(木)

市長選が無投票になりそうだと情報を得る 連続無投票は納得できない!

11/5(日)

市長選について共産党が候補擁立を画策している旨の情報を得る

片山陣営も選挙を前提に準備しているとの情報を得る 安心するも無投票の場合は検討

11/7(火)

共産党の擁立も不発で市長選挙が無投票間違いなしの情報を得たため、選管に資料を「明日取りに行く」旨を連絡

11/8(水)

仕事があまりに忙しく、午後選管に資料取りに行き夜間に目を通す

11/9(木)

長岡市(寺泊)文化センターの堀内孝雄コンサートのイベント制作業務のため早朝から深夜まで出張。リハーサルの合間や本番中の約2時間で政策公約を作成

11/10(金)

a m : 会社の給料日、支払日のため朝一番から激務が続く

合間を見つけて、市役所にて戸籍謄本と妻に出す離婚届を入手、記入作成捺印の上、昼頃、妻に手渡し「立候補する旨」伝える(政治活動するなら離婚してからと常々言われていた為やむを得なかった)

13:00 「どちらに転んでも良いように」ポスターのデザインを依頼、写真を使わないで政策を前面に出す基本コンセプトでキャラクターデザインも同時に依頼する。約2時間で制作完了

13:30 法務局に行き供託の書類を受け取るも、供託した時点で立候補を取り止めても供託金は没収となる事を確認したため、告示日の朝、候補が一人のみだった場合手続きをすることとした。

14:00 選管に書類の事前チェックに行き、ポスター掲示場所の地図をもらう

14:30 タクシー会社に選挙カーの借り上げ可能か確認で承諾を得る

15:00 新潟にて本業の仕事で行きその合間にポスターデザインのチェック。その合間に、印刷を請け負う会社を探し続けるも、新発田市内の業者は軒並み断られ窮地に

15:30 政策公約を告示前日にwebにアップすること独自ドメインが取得できるか依頼

16:00 ポスター印刷を請け負う会社が見つからず市内の知人に相談、同時に選挙カーのカッティングシートの制作依頼を行うもポスター同様引き受ける業者が現れず

17:00 ポスター印刷については市内業者が全て駄目だった場合は胎内市内の印刷会社が引き受ける旨確約したため、立候補に関わる一切の障害がクリアされる

17:30 報道向けの資料「立候補に於ける理由と障害」を約1時間で作成

19:00 報道機関に一齐に「理由と障害」+「政策公約」をFAX送信

19:30 新潟日報社より取材を受ける

21:00 中央紙3社より共同記者会見の開催依頼を受け翌11日10~12時に約束

21:30 ポスター掲示責任者を田巻氏に依頼

11/11(土)

8:30 親戚にポスター貼りボランティアがいらないか要請、友人知人宛にメールで同様に要請

9:00 ポスターを胎内市の業者に発注、18時に刷り上がる旨確認

9:30 選挙カーの借り上げを市内のタクシー会社に正式に要請

10:00 ~ 12:00 中央町K O K K本社にて記者会見並びに撮影等を開催
13:00 選挙カーのカットシート制作を引き受ける業者が見つからず苦戦するが、知人からの紹介で、夜間の間に作成し、翌日朝一番で貼ることで調整完了
17:00 w e b上に政策公約設定完了
19:00 上楠川にてポスター貼りの打ち合わせと両面シール貼りの準備
11 / 12 (日)
6:00 カットシートを貼り付け
7:00 選挙カー組み立て、スピーカー配線、8:00 完了したタクシー会社は警察への届出
9:00 候補者の届出が1名であることを確認の上、法務局へ供託の手続き
9:20 第四銀行へ行くが誰もおらず供託金の入金完了したのは9:40頃
9:40 選管へ立候補届出
9:50 届出終了後、タクシー会社へ向かい街宣活動開始、ポスター掲示開始
10:20 コモタウン前にて1回目の街頭演説、その後、25カ所で街頭演説
11 / 13 (月) 川東街宣 + 街頭演説 × 25回
11 / 14 (火) 川東 ~ 米倉街宣 + 街頭演説 × 26回
11 / 15 (水) a m紫雲寺 ~ p m加治 + 街頭演説 × 21回
11 / 16 (木) a m佐々木 ~ 旧豊浦町 ~ p m米倉 ~ 赤谷 ~ 五十公野 + 街頭演説 × 13回
11 / 17 (金) a m旧豊浦町の一部 ~ 五十公野 + 街頭演説 × 15回
11 / 18 (土) a m紫雲寺街宣 + 街頭演説 × 27回
期間中152回の街頭演説実施

2 主な活動の内容

街頭演説を行った場所・・・新発田駅、西新発田駅、新発田市役所前、旧紫雲寺町役場前、旧豊浦町役場前、月岡温泉三叉路、月岡温泉結城堂前、ウオロクグリーンコート前、ウオロク豊町前、モスバーガー前、ムサシ前、コモプラザ前、蔦屋書店前、ひらせい前、ジャスコ前、ジャスコ裏期間中とにかく寒さで参った。アラレやミゾレは勿論、突風、雷と最悪の天候だった。初日はスーツで街頭演説を行ったが、風邪をひいてしまい翌日から登山用の専用の雨具 + 防寒長靴に切り替えた。黄色い目立つ色で、これがかえって目をひく結果となった。

マイクは車内用は一般的なダイナミック型であったが、街頭演説時は両手を大きく使えるヘッドセットマイクを使った。これがなかなか好評で、パフォーマンス効果があった。

組織的な電話がけは一切行わなかった。事務所にも電話は引いていない。

ハガキは約4100通出した。前回の名簿に加え、市内の会社から従業員名簿等の提供があった。基本的には支持者が自分で記載する形のものを中心となった。

政策w e bにアクセスするためのQRコードを公報に記載した。画期的だと思う。

11 / 16には倍賞千恵子のコンサートがあったので、通常の業務で文化会館に行く。ここでも激励が相次ぐが、選挙違反と隣り合わせのため通常業務に専念。コンサート準備中や本番中にも抜け出して雨の中、街頭演説実施。

前半2日は無投票阻止を前面に出したが、中盤より片山市政の批判も盛り込んだ、後半は和歌山県知事の汚職問題も絡め多選批判や、金のかかる組織選挙の糾弾も織り交ぜて対決色を打ち出す方法をとった。

今回は立候補を取り沙汰されてからと言うもの、親戚、友人など比較的遠い知人に至るまで、嫌がらせが多かった。またそれに付随して非難中傷も活発であった。

選挙の費用については、公費助成の範囲を基本にしたが、ハガキの印刷費のみは必要となった。

ポスター貼りと最終日午後の選挙カーのアナウンスは親戚、友人の自発的なボランティアで事務所には常駐していなかった。選挙カーのカットシート代は別途掛かると拡声器一式は私の会社のイベント制作部門で使っているものを借用した。公費助成については最低得票数に満たなければ助成を受けられないのではあるが・・・

後半で、自発的にメールを回す支持者が多かった。若い世代は友人でも住所を知らない場合が多く、今後はメールの活用も考えるべき時かもしれない。

全体の感触について

反応が良かったのは女性と若年層であるがこの層は、盛り上がりつつも投票へ行く保証がない。堅いのは逆に30～50代の特別な利害関係のない良識のある市民であろう。手応えとしてはかなり大きかったが、結果的には最低得票数を得られるかがポイントになるだろう。ある意味片山候補やバックの岩村県議においては、最低得票数をクリアできずに、小柳が政治家として二度と出てこれないように芽を摘む必要が有ると推測される。

投票率は大幅に下がるだろう。演説中に興味を示す市民や、車から反応する数からしておよその見当は着くというものだ。広域合併して、自治から住民の興味があまりに離れすぎている。おまけに、無投票を前提で構えていた74才の3期を目指す現職と、なんのしがらみのない新人では一般的な選挙の観念からすれば低投票率になるのは当たり前で、40%位のもだと思う。

言い方を変えれば、談合や特定の業者が密室で進める「旧田中角栄型」の政治手法＝利権政治に地方がどっぷりと浸かっている事への住民の反発とシラケだろう。これは私の力ではどうすることも出来なく、あまりにだらしく、説明責任を果たさない現職の「問題意識ゼロ議員」や首長を始めとする行政の問題だ。そこで、地方版の小泉劇場のような「期待感の持てる政治」を全面にプロモーションを行ったが、時間的は絶対的に短い。しかし早くから活動すれば、様々な脅しや妨害が更に過激となるだけで、家族はその非難中傷に耐えられないだろう。即ち、奇襲攻撃でなければ、非組織型のクリーンな政治は難しいのだ。

今回の非組織型の選挙運動はある程度政治意識の高いレベルの層には、一定の評価を得られたと思う。公約で全面武装し組織動員を行わないのであるから、極めて負荷の軽い活動である。しかし、市長の仕事はなんなのか、また、議員の仕事はなんなのか、あまりにも国民が無知すぎる。若い世代は「政治＝汚らしい」のイメージが完全に確立している。今は「眠れる獅子」で何も行動は起こさないが、ひとたびその攻撃のスイッチが入ると途轍もないパワーを生み出す。日韓ワールドカップの盛り上がり、アルビレックスの熱狂ぶりを見ていれば明らかである。その恐ろしさは「何も知らないで突っ走る」力を秘めている。暴走しないことを祈るが、その為には政治家自らが襟を正し、自分の仕事についてもっと分かり易く説明する義務があるだろう。その為にも早急に若年層の政治への関心度のアップは重要な課題であろう。

得票数的には最低得票数をクリアできれば片山陣営としては事実上の敗戦であろう。今後の県議選や市議選での枠組みの問題も出てくるであろうし、建設業協会などの結束の綻びから論功行賞の配分を巡り談合情報などの告発も誘発されるかもしれない。

3 予想得票と反響について

現職への漠然とした不満や新発田人の良識が反対票として得票に結びつくだろう。特に、74才という高齢や、取り巻きの特定企業との密接な関係、産業経済を始めとする市の活性化が進まず、また何も変わらない漠然とした不満、対立候補を徹底的に潰し、立候補できないように相手候補を葬り去る倫理観、そして2期を終えた飽き・・・こんな所であろう。

また積極的な得票は、世代交代を背景とする年齢差、多選批判（和歌山、福島は非組織型選挙活

動にとって追い風)、無投票阻止をしたその勇気を称える「天晴れ論」、民主主義の理念を身をもって貫いたという賛同意識、政策論や街頭演説に代表される新しいスタイルの選挙運動に対する期待、新発田が生んだ清貧な政治家「小柳牧衛」のブランド、紫雲寺には鬼島氏、加治には小林氏、月岡には飯田氏の擁立が不発になった落胆から発生した得票も有るであろう。

敗因は確実に「新発田ではまだ組織選挙が主流」という事実と、「民主主義の基本が解らない住民があまりに多い実情」でつきる。だから旧町村の町村議や首長に「特別参与や在任特例」という餌を与えることで黙らせることが可能で、その餌が税金によるものであることを住民があまりにも知らなすぎる。ただ、この点を論争の焦点に位置付ければ、組織の引き締めが更に活発化し、郡部の組織票が積み増されるだけだ。結局、争点が前面に出されれば、仮に「特例」問題を争点に持ってきても、奮起した組織の前に没することになる。同様に「表門風ゲート」問題は早速に取り下げたし、保育園の統廃合問題も多少の時間稼ぎで争点そのものを隠してしまった。そういった意味で片山選対の作戦勝ちである。豚舎問題であっても、地域限定問題であるから、他地域の住民は意外に無関心なものなのだ。

逆に勝因は期待感や「変わることに」対して夢を見た住民がそれなりの数居たことにつきる。今回は正直言って60%の投票率で5千票の得票(要は最低得票数の確保)が目標であった。告示36時間前からの準備や本当に純粋に組織ゼロ(草の根と言っても実際は労組や企業支援が有ることが既成事実)でどこまで出来るのか市民も期待と「結局は組織を持った現職有利で無理だろう」といった虚無感が交錯していることだろう。

選挙活動を終えてのコメント

市長選挙後 11/20 10:00 に作成

この度の新発田市長選挙では大変お世話になりました。そしてありがとうございました。

無投票阻止を掲げて、離婚届に判をつけてまで決意した、今回の立候補ですが、発表するやいなや、大量の激励や、感動したと言うメッセージを頂きました。

一切の組織を持たず、政治信条だけでどこまで通用するのか、まだまだ保守的な色合いの残る地方都市では、恐ろしい冒険のように思います。事実、親戚、友人、知人とありとあらゆるルートを通して様々な妨害や脅迫がありました。短期決戦であったから被害は最小であったろうと推測されますが、これが1ヶ月も有ったなら、たぶん家族の反対に従わざるを得なかったろうと思います。（恐ろしいですが娘にも手が伸びると思います）

幸い私は失うものは最小です。私の会社は市から大きな仕事を受注しているわけではなく、県内に広く分布した個人顧客を相手とする業態ですし、旅行業自体が参入障壁も殆どなく、自由闊達な雰囲気ですから、簡保や修学旅行以外では元々談合や不正はありません。私の会社ではそういった意味で、「悪徳政治屋」たちからの標的に成りにくかったのだと思います。

今回の選挙は市民の皆さんに対して、地方自治に参加するとはどういう事か？といった素朴な話題を提供できたと思います。無投票で白紙委任されていれば、「市政運営に対しての批判はゼロである」と言い切れませんが、現実に片山氏の得票数から見た信任率は僅か 25.5%にしか過ぎません。一方、私と片山氏の得票比率は 1:2.07 ですから、およそ 3 人に 1 人は私を支持した結果となります。

現職 21,706 で私が 10,466 という結果だけを見れば「完敗」ではありますが、「組織に無縁な同じ市民の立場の人が頑張ってくれて感動した」「これだけ健闘出来るなら諦めないで投票に行っておけば良かった」「自分たちで政治に参加する事を否定してはいけないんだと思った」などの声が支持者を通じてメールなどで飛び交っています。そう言った意味で、今までの白けて無関心だった層の一部が動き出したように思います。

小泉登場に日本中が熱狂した 5 年前、新発田で「そのような政策重視の流れ」が来るのは、世代が完全に交代してからだと思っていました。ですが、長引く不況や「自分の街の事は自分の責任で決める」という地方分権の流れの加速で、従来の政官業が密接に連動して、税金（将来の借金を含め）を私物化する、従来の「政治のビジネスモデル」には終焉が近づきつつ有るのは、新発田のような地方都市でも理解されつつあるのだと思います。ただし、地域の産業に占める「土建業の GDP 比率」は相変わらず圧倒的に高いため、今後新しいビジョンに基づいて、地域のグランドデザインを練り直す必要が有るでしょう。

目標としていた得票があり 100 万円の供託金は還ってきます。街頭演説を期間中 150 本も打って、スタッフを 1 名もおかず、しかも告示の 36 時間前に立候補表明と前代未聞の出来事だらけだったので、結果としては最大級なのかな？と思います。結果は負けですが、相手は、国会議員 + 全県議 + ほぼ全員の市議の布陣ですから、このような組織ゼロでの新しい政治のやり方で、一定の得票が有ったのはこの田舎の地方都市では非常に画期的で素晴らしいことだと思います。

今後の活動について早くも周囲が騒がしいので、方向性を公表しておきます。まず来週立候補を予定していた市議選に立候補することは積極的に考えておりません。地縁血縁やベタベタと時間と金と労力を浪費する選挙に飽き飽きしたからです。新発田でも政策や信念だけでそれだけの手応えがありました。私に投じられた 1 万以上の思いに応えるためにも、市政への監視を強化し、若い世代がもっと積極的に政治に関われる土壌造りに取り組みたいと考えています。

片山市長には、この選挙結果を直視していただいた上、健康に充分留意され、公平で、そして地域の中長期を見据えた「幸せな市民生活」を実現すべく努力して欲しいと願っております。

小柳はじめ